

# 大会式典



三井所連合会会長による主催者挨拶

4年の歳月を経て迎えた京都大会。大会式典は、番匠保存会による「手斧始め」で厳かに幕を開けました。「手斧始め」は1年の無事を祈る仕事始めの儀式であり、また39年前に京都で開催された大会でも披露されたものです。そしてステージの両横の「北山杉」によるデコレーションは、大会テーマにふさわしく京都の山を思い起こさせる演出でした。

京都府建築士会全国大会実行委員長 黒木幹雄による開会宣言の後、京都府建築士会会長 衛藤照夫より京都大会開催にあたり挨拶をさせていただきました。

国歌斉唱の後、この1年間に逝去された315名の会員の方々に追悼し黙祷致しました。

日本建築士会連合会会長 三井所清典氏の主催者挨拶に続き、国土交通省大臣官房審議官 眞鍋純氏、京都府建設交通部技監 村松徹也氏、京都市長 門川大作氏よりご祝辞をいただきました。

そして今大会には大韓建築士協会の方々も多数ご参加くださっており、會長 趙忠基

氏は「安全、健康、福祉を追求し、建築を通して全ての人々が幸せになることが必要です。これは、国境を越え建築関係者である私たち全ての義務であり使命です」と祝辞の中で述べられました。

今大会には3,800余名の会員の方々の参加が報告されました。

表彰式では、連合会会長表彰108名を代表して京都府建築士会 池内隆人が、伝統的的技能者表彰23名を代表して京都府 勝本登氏が、日本建築士会連合会賞優秀賞4グループを代表して長野県建築士会 児野登氏がそれぞれ表彰状を授与されました。続いて地域実践活動表彰、会員増強表彰、建築士会周知ポスターデザイン最優秀賞表彰が行われ、さらに趙忠基氏に名誉顧問授与式が行われました。

その後、前段を衛藤照夫、後段を日本建築士会連合会副会長 岡本森廣氏より大会アピールが宣言されました。

そして、大会旗が衛藤会長から三井所会

長、三井所会長から埼玉建築士会会長 江口満志氏へと引き継がれ、江口氏より次期開催地としての挨拶と埼玉士会の方々によるアピールが行われました。

最後に京都府建築士会常任副会長 高田光雄による閉会挨拶で滞りなく式典の幕を閉じました。

こうしてこの大きなイベントを無事に終了できたことは、ひとえに皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

(遠島和恵 / 式典部会部長)



京都から埼玉へ、大会旗引継ぎ



番匠保存会による「手斧始め」



岡本連合会副会長による大会アピール



大韓建築士協会・趙忠基會長の祝辞